

私の活動のテーマは地方の活性化であるが、観光については、多くの地域が高い期待を寄せている。しかし、観光が将来に向けて安定した地域の産業発展につながっていくかについては少なからぬ不安もあるようだ。

いま外国人観光客の誘致に向けての議論が盛んだ。国内市場が縮小し、海外の市場が拡大していくなかでは、海外市場と向き合いながら地域が発展していく方策はこれからの重要な地域のテーマである。しかし、地方では海外との交流や、外国人との付き合い方については経験が浅い。いかに対象国のニーズを把握し、それに向けてどのような観光商品をつくり、プロモーションを展開していくかなど地方にとっては課題が山積みだ。そして、それ以上に大切なことがある。それは、外国からの観光客誘致のみならず、いかに海外との広い結びつきの中で、地域の資源を活かした経済発展、地域づくりを目標していくのかという大局的な戦略を持つことだ。

地域が海外とのつながりで経済的に発展していく方策は大きくは四つである。

- ① 地域産品の輸出
 - ② サービスの輸出（外国人観光客の域内消費）
 - ③ 海外への直接投資
 - ④ 海外からの直接投資の受け入れ
- インバウンド観光については②だけでなく、①、③、④とのつながりで地域全体の発展に結びつけていく視点が必要だ。

インバウンド観光と地域戦略

北海道大学公共政策大学院特任教授 小磯 修二

特に④とは、消費と投資の連鎖による相乗効果を目指す戦略が必要だ。

北海道のニセコはパウダースノーの魅力で十年ほど前からオーストラリアからの観光客が増加し、次第に夏季のアウトドアレジャーも広まり、通年型のリゾートとして発展している。最近では海外富裕層の来訪を契機に、魅力ある投資先として海外からの直接投資が飛躍的に増えてきた。その結果、倶知安町のひらふ高原地区は、地域に居住しない不動産所有者が八〇%を超えるまでになり、都市計画による用途、景観の規制、コミュニティ機能の低下による非居住者からの負担金徴収など新たな地域問題が噴出してきている。

海外からの観光消費とともに、海外からの直接投資をバランスよく地域経済の発展に結びつけて、持続的なまちづくりをどのように進めていけばいいのか、地域にとっては極めて高度な応用問題がぶつけられたのだ。この問題に立ち向かうため、今年の七月に「ひらふ高原地域のまちづくりを考える検討会」が立ち上がった。行政に加えて、地元の経済団体、商店、住民など広範な地域のメンバーが世代を超えて参加し、私はいの代表として全体調整にあたることになった。第一回の検討会は、英語と日本語が飛び交うなかで、若い世代からは大胆な提案も出てきた。国際観光地を次世代につなぐための新たな戦略づくりに向けて挑戦が始まっている。

（こいそ しゅうじ）